

## Solaris 10 10/08 OSにおける統合インストーラの注意事項

Solaris 10 10/08 OSのインストールにおいて、統合インストーラの以下の機能が利用できません。また、ZFSルートファイルシステムのインストールは未サポートです。

- ① Solaris OSインストール
- ② Solaris OSと製品のインストール
- ③ 製品の追加インストール
- ④ フラッシュアーカイブを使用したインストール (フラッシュインストール)
- ⑤ 仮ブート実行時のGRマルチパスドライバ、ETERNUSマルチパスドライバの設定

### [各機能におけるエラー現象]

#### ①②④の現象

統合インストーラ (cluster\_setupコマンド) を実行中に、以下のエラーメッセージが出力されます。

Input error: <入力値>

#### ③の現象

①②の機能が利用できないため、製品の追加インストールは使用できません。

#### ⑤の現象

「ユーザーズガイド 統合インストーラ編」の「4.5 ドライバのインストール」において、ETERNUSディスクアレイ用ドライバのインストールに失敗します。

V12.2/V13.0.0の場合 : ERROR: Installation of FJSVpfca failed.

V13.2.0の場合 : ERROR: Can not obtain OS release file.

Solaris 10 10/08 OSのインストールにおいて、統合インストーラの以下の機能を利用する場合は、回避方法を実施してください。

### [回避方法により利用できる機能]

- ① Solaris OSインストール
- ② Solaris OSと製品のインストール
- ③ 製品の追加インストール
- ④ フラッシュアーカイブを使用したインストール (フラッシュインストール)

### [制限事項]

- ・ ZFSルートファイルシステムのインストールは未サポートです。
- ・ 回避方法を実施しても、”⑤ 仮ブート実行時のGRマルチパスドライバ、ETERNUSマルチパスドライバの設定”機能は使用できません。

Solaris 10 10/08 OSをインストールする場合、「ユーザーズガイド 統合インストーラ編」の以下の手順において、仮ブート時、ETERNUSディスクアレイのドライバを設定するための画面がターゲットホストのコンソールに表示されません。

➤ 「5.2.1 新規設定インストール」 - 手順B-18.

➤ 「5.2.3 参照作成」 - 手順C-8.

インストール完了後、ターゲットホストで使用するマルチパスドライバに従って、以下を参照し、ターゲットホストでマルチパスの構成を行ってください。

➤ ETERNUS マルチパスドライバ ユーザーズガイド

➤ GR マルチパスドライバ ユーザーズガイド

回避方法は以下の通りです。

1. インストールサーバの作成手順について
2. ターゲットホストのインストールについて
3. インストールサーバのOSにSolaris 10 5/08以前を使用する場合の注意事項
4. check\_settingコマンドについて 【V13.2.0のみ】
5. [補足]トラブルシューティング

### <注意>

インストールサーバのOSにSolaris 10 5/08以前のSolaris 10 OSを使用する場合、以下のパッチが必要です。回避方法を実施前に、パッチを適用してください。

- ・ 137137-09以降 (kernel patch)

なお、パッチを適用しない場合は、およびインストールサーバのOSにSolaris 9 OS以前を使用する場合は、「3. インストールサーバのOSにSolaris 10 5/08以前を使用する場合の注意事項」を実施してください。

1. インストールサーバの作成手順について

「ユーザーズガイド 統合インストーラ編」の「第4章 インストールサーバの作成」手順において、以下の作業を行ってください。

1) usrディレクトリのコピー

「4.4 Solaris OS の複写」において、Solaris 10 10/08 OSの複写を行った後、複写したCDイメージ内に、ミニルートのusrディレクトリをコピーしてください。

/export/install/Sol10 ディレクトリ配下にSolaris 10 10/08 OS CDイメージを複写した場合を例に、手順を説明します。

- ミニルートイメージを/mntディレクトリにマウント

```
# lofiadm -a /export/install/Sol10/boot/sparc.miniroot <RETURN>
/dev/lofi/1
# mount -o ro,nologging /dev/lofi/1 /mnt <RETURN>
```

- usrディレクトリのコピー

```
# cd /mnt <RETURN>
# find ./usr -print | cpio -pdm /export/install/Sol10/Solaris_10/Tools/Boot <RETURN>
```

- lu.cpio.bz2ファイルの展開

```
# cd /export/install/Sol10/Solaris_10/Tools/Boot <RETURN>
# bzcat lu.cpio.bz2 | cpio -idum <RETURN>
```

- ミニルートイメージのアンマウント

```
# cd / <RETURN>
# umount -f /dev/lofi/1 <RETURN>
# lofiadm -d /dev/lofi/1 <RETURN>
```

2) ドライバのインストール

「4.5 ドライバのインストール」において、Solaris 10 10/08 OS CDイメージへのドライバのインストール作業は実施しないでください。

3) beginスクリプトの編集

インストールサーバ上のbeginスクリプト(/etc/opt/FJsvclis/etc/inst\_info/begin\_scr)をテキストエディタ(vi等)で開き、以下の通り編集してください。

また、編集するファイルを編集前にバックアップしてください。

バックアップ方法(例) :

```
# cd /etc/opt/FJsvclis/etc/inst_info <RETURN>
# cp -p begin_scr begin_scr.org <RETURN>
```

編集方法 :

★印の行を追記してください。

(V12.2/V13.0.0の場合 : 262行目、V13.2.0の場合 : 273行目)

```
          $MOUNT -F nfs -o ro ${SEVER_IP}:${MINIROOT_PATH} $FJsvclis_BOOT || return 1
★      if [ ! -d "$FJsvclis_BOOT/var/opt" ]; then
★          return 0
★      fi
          CUR_DIR=`pwd`
```

4) SPARC EnterpriseにSolaris OSをインストールするための設定【V13.2.0のみ】

「4.16 SPARC Enterprise に Solaris OS をインストールするための設定」の「1. ミニルートへのドライバのインストール」において、Solaris 10 10/08 OS CDイメージへのドライバのインストール手順は、ユーザーズガイドに記載された内容ではなく、以下の通り実施してください。

[ミニルートへのドライバインストール手順]

インストールサーバのディスク装置に複写したSolaris 10 10/08 OS CDイメージのミニルートに、ドライバをインストールします。

インストールサーバをSolaris 10 10/08 OS以降にするか、Solaris 10 10/08 OS以降相当のパッチ(137137-09以降)を適用する必要があります。

Solaris OS の複写で、/export/installディレクトリ配下に“Sol10”を作成した場合は以下のようになります。

- ミニルート展開用の作業ディレクトリを作成します。

```
# mkdir /tmp/work <RETURN>
```

- root\_archive(1M) コマンドを使用して、ミニルートを作業ディレクトリに展開します。unpackmedia実行時にエラーメッセージが表示されますが、無視して次の手順に進んでください。

```
# /boot/solaris/bin/root_archive unpackmedia /export/install/Sol10 /tmp/work <RETURN>
```

- ミニルートを展開した作業ディレクトリに、ドライバをインストールします。

[FUJITSU PCI GigabitEthernet 3.0 Update1の場合]  
インストールサーバのCD-ROM装置(DVDドライブ)に、FUJITSU PCI GigabitEthernet3.0 Update1  
CD-ROMを挿入し、以下のように実行してください。

```
# cd /cdrom/cdrom0/FJSVgid_3.0/10 <RETURN>
# pkgadd -R /tmp/work/ -d . FJSVgid.u <RETURN>
# pkgadd -R /tmp/work/ -d . FJSVgid.v <RETURN>
# patchadd -C /tmp/work/ 914568-02 <RETURN>
```

インストールが完了した後、CD-ROMを取り出します。

<参考>

- ・ インストール時に、パッケージ名が“FJSVgid.2”、“FJSVgid.3”などと表記されますが、問題ありません。
- ・ FUJITSU PCI GigabitEthernet 3.0 Update1と異なるバージョンをインストールする場合、patchaddコマンドで適用が必要なSPARC Enterprise用のパッチ番号は、FUJITSU PCI GigabitEthernetのインストールガイドを参照してください。

[FUJITSU ULTRA LVD SCSI Host Bus Adapter Driver 2.0 Update1 の場合]

インストールサーバのCD-ROM装置(DVDドライブ)に、FUJITSU ULTRA LVD SCSI Host Bus Adapter  
Driver 2.0 Update1を挿入し、以下のように実行してください。

```
# cd /cdrom/cdrom0/ultra_lvd_driver/10 <RETURN>
# pkgadd -R /tmp/work/ -d . FJSVulsa.u <RETURN>
# pkgadd -R /tmp/work/ -d . FJSVulsa.v <RETURN>
# patchadd -C /tmp/work/ 914572-01 <RETURN>
```

インストールが完了した後、CD-ROMを取り出します。

<参考>

- ・ インストール時に、パッケージ名が“FJSVulsa.2”、“FJSVulsa.3”などと表記されますが、問題ありません。
- ・ FUJITSU ULTRA LVD SCSI Host Bus Adapter Driver 2.0 Update1と異なるバージョンをインストールする場合、patchaddコマンドで適用が必要なSPARC Enterprise用のパッチ番号は、FUJITSU ULTRA LVD SCSI Host Bus AdapterDriverのインストールガイドを参照してください。

- d. 展開した作業ディレクトリを圧縮します。

```
# mkdir -p /tmp/media/Solaris_10 <RETURN>
# /boot/solaris/bin/root_archive packmedia /tmp/media /tmp/work <RETURN>
```

- e. /tmp/media配下のファイルと、インストールサーバ上のOSインストールイメージ配下のファイルを置き換えます。“umount -f”、“lofiadm -d”は、“df -k”で確認してから実行してください。

```
# cd /tmp/media <RETURN>
# find boot Solaris_10/Tools/Boot | cpio -pdm /export/install/Sol10 <RETURN>
# umount -f /dev/lofi/1 <RETURN>
# lofiadm -d /dev/lofi/1 <RETURN>
```

2. ターゲットホストのインストールについて

「ユーザーズガイド 統合インストーラ編」の「5.2 Solaris OS と各製品のインストール」手順において、以下の作業を行ってください。

- 1) フラッシュインストールについて

「5.2.2 フラッシュアーカイブを使用する場合の操作」の「2. プロファイルの編集」の「編集内容」において、archive\_locationキーワードの設定は、ユーザーズガイドに記載された内容ではなく、以下の通り編集してください。

編集内容：

- ・ archive\_location キーワードの設定を追加します

```
archive_location local_file /cdrom/Solaris_10/Tools/Boot/フラッシュアーカイブ名
```

フラッシュアーカイブ名には、「1. フラッシュアーカイブの配置」で配置したフラッシュアーカイブ名を、ミニルートとした絶対パスで指定します。

たとえば、ミニルート“/export/install/Sol10/Solaris\_10/Tools/Boot”直下に“flash\_file”というファイル名で配置した場合、以下のように指定します。

```
archive_location local_file /cdrom/Solaris_10/Tools/Boot/flash_file
```

3. インストールサーバのOSにSolaris 10 5/08以前を使用する場合の注意事項

[該当する環境]

- ・ Solaris 10 5/08以前のSolaris 10 OS、かつパッチ137137-09が未適用

・ Solaris 9 OS以前  
インストールサーバのSolaris OSが上記の場合、以下のインストールにおいて、インストール設定とインストールが同時にできません。

- ・ Solaris 10 10/08 OSのインストール
- ・ Solaris 10 10/08 OSと製品のインストール

「ユーザズガイド 統合インストーラ編」の「5.2 Solaris OS と各製品のインストール」手順において、以下の通り実施してください。

1) 新規設定インストール

以下の手順において、ネットワークインストールを開始するかどうかの問合せでは、“n”を選択してください。

- ・ 「5.2.1 新規設定インストール」－ 手順B-26. － 「[仮ブートを実行した場合]」
- ・ 「5.2.3 参照作成」－ 手順C-9.

また、続けて、“t”メニューまたは“n”メニューを選択し、Solaris 10 10/08 OSをインストールする全てのターゲットホストのインストール設定を完了してください。

2) ネットワークインストールの実行

1)の手順において、“n”を選択した場合、手動でターゲットホストをネットワークブートする必要があります。“n”を選択後、「5.2.5.1 Solaris OS、または Solaris OS と各種製品のネットワークインストール方法」において、各ターゲットホストでネットワークブートコマンド (boot net - install) を実行する前に、回避方法の「1. インストールサーバの作成手順について」の「1) usrディレクトリのコピー」の手順でコピーした、usrディレクトリを削除してください。/export/install/Sol10ディレクトリ配下にSolaris 10 10/08 OS CDイメージを複製した場合は、インストールサーバで以下のように実施してください。

```
# rm -rf /export/install/Sol10/Solaris_10/Tools/Boot/usr <RETURN>
```

4. check\_settingコマンドについて 【V13.2.0のみ】

インストール環境のチェックを行うcheck\_settingコマンドにおいて、Solaris 10 10/08 OS CDイメージのインストール設定チェックに対して、以下の警告・エラーメッセージが出力されます。以下の対処を行ってください。

[メッセージ]

```
FJSVclis:ERROR:check_setting:no ETERNUS disk array driver(Fibre Channel) in miniroot (Solaris 10 10/08 OSのミニルートのパス)
```

```
FJSVclis:ERROR:check_setting:no ETERNUS disk array driver(Multipath) in miniroot (Solaris 10 10/08 OSのミニルートのパス)
```

[対処]

本メッセージは無視してください。

[メッセージ]

```
FJSVclis:WARNING:check_setting:no FUJITSU PCI GigabitEthernet(アーキテクチャ) in miniroot (Solaris 10 10/08 OSのミニルートのパス)
```

```
FJSVclis:WARNING:check_setting:no FUJITSU ULTRA LVD SCSI Host Bus Adapter Driver(アーキテクチャ) in miniroot(Solaris 10 10/08 OSのミニルートのパス)
```

[対処]

以下の環境で、SPARC EnterpriseにSolaris 10 10/08 OSをインストールする場合は、回避方法の「1. インストールサーバの作成手順について」の「4) SPARC EnterpriseにSolaris OSをインストールするための設定」の手順を実施済みか確認してください。実施済みの場合は、本メッセージを無視してください。

- ・ Dual Gigabit Ethernetカード、またはQuad Gigabit Ethernetカードのインタフェースを使用して、Solaris 10 10/08 OSをインストールする場合、または
- ・ デュアルチャネルUltra320 SCSIカードを使用して、外付け増設ファイルユニットにSolaris 10 10/08 OSをインストールする場合

[メッセージ]

```
FJSVclis:ERROR:check_setting:<ターゲットホスト名>:<フラッシュアーカイブ名>: is not found
```

[対処]

フラッシュインストールを行う場合、回避方法の「2. ターゲットホストのインストールについて」の「1) フラッシュインストールについて」の手順を実施済みか確認してください。実施済みの場合は、本メッセージを無視してください。

5. [補足]トラブルシューティング

回避方法のトラブルシューティングについて説明します。

[現象]

ターゲットホストでネットワークブートコマンドを実行したが、以下のメッセージが表示されて止まってしまう。

```
Segmentation Fault - core dumped  
Solaris installation program exited.
```

[対処方法]

ターゲットホストでネットワークブートコマンドを実行する前に、回避方法の「1. インストールサーバの作成手順について」の「1) usrディレクトリのコピー」の手順でコピーした、usrディレクトリを削除していないことが原因です。

回避方法の「3. インストールサーバのOSにSolaris 10 5/08以前を使用する場合の注意事項」の「2) ネットワークインストールの実行」に従って、usrディレクトリを削除し、再度、ネットワークブートコマンドを実行してください。